



Title	松本ロータリークラブによるEND POLIOに向けた活動報告
Author(s)	松沢, 宏; 宮坂, 昌樹
Citation	目で見るWHO. 2025, 92, p. 10-11
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102307
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

松本ロータリークラブによる END POLIOに向けた活動報告



松本ロータリークラブ 2024-25年度 会長

松沢 宏 (まつざわ ひろむ)

長野県上田市出身。

(株)長野銀行を経て、現在は桐原ガス燃料(株)代表取締役。



松本ロータリークラブ 2024-2025年度 幹事

宮坂 昌樹 (みやさか まさき)

長野県岡谷市出身。

(株)野村證券を経て、現在はサスナカ通信工業(株)代表取締役社長。

国際ロータリーとポリオ根絶活動

国際ロータリーは 110 万人以上の会員からなる世界規模の奉仕団体です。その使命は職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて、人びとに奉仕し高潔さを奨励し、世界理解、親善、平和を推進することです。また、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しております。

国際ロータリーは 1979 年にフィリピンの 600 万人以上の子どものためにポリオワクチンを購入輸送するプロジェクトを開始したのを皮切りに、1985 年にポリオ根絶活動を推進するための事業「ポリオプラス」を開始しました。1988 年には世界保健機関 (WHO) と共に「世

界ポリオ撲滅推進活動」(GPEI) を立ち上げました。以来ポリオ根絶活動を一丁目一番地に掲げ、根絶に成功した天然痘に続くべく、様々な活動を展開しております。

松本ロータリークラブの活動

松本ロータリークラブは第 2600 地区(長野県内)52 クラブの内の 1 クラブで、地区内では最初に設立(1966 年 4 月)されました。現在の会員数は正会員 56 名・名誉会員 1 名で構成されています。これまでに「ポリオプラスへの寄付」「交換留学生への支援」「松くい虫対策」「市内小中学校への植樹」等の活動に取組んでおります。2022 年 6 月には、古着の再利用システムによるポリオワクチン寄付を展開されている「古着 de ワクチン」に賛同し、会員及び会員

所属企業・団体から不要となった古着を約 1.5t 集め、それらは世界各地で再利用されると共に 300 人分のポリオワクチンが途上国に寄付されました。2023 年 10 月には松本ロータリークラブ所属の折井正明ガバナーによる強力な推進のもと第 2600 地区全体で「古着 de ワクチン」事業を展開し、古着約 26.7t の再利用及び約 5300 人分のポリオワクチンが途上国に寄贈されることとなりました。

講演依頼の経緯

2024 年度の事業を実施するに当たり、松本ロータリークラブの活動を地域の皆様に知っていただくことを考慮し、どなたかにご講演いただくことを模索しておきました。そのような折に、パレスチナ・ガザ地区において 25 年ぶりにポリオ感染者が確認されたとの報道がなされ会員一同大変憂慮しておりました。その後戦闘の人道的休止期間という極めて困難な状況下において、ポリオワクチン接種が開始されました。現地の状況をより多くの方々に知っていただくことの重要性を鑑み、日本 WHO 協会様にご相談致しましたところ、中村安秀理事長にご快諾賜り自ら当地松本市にお見えになられてご講演いただく運びとなりました。

イベントの実施

2024 年 11 月 4 日、松本市内中心部の信毎メディアガーデンにおいて当クラ



写真1 松本ロータリークラブ会員、交換留学生、松商学園高等学校インターラクトクラブ部員による募金活動



図1 中村安秀理事長によるご講演のスライド

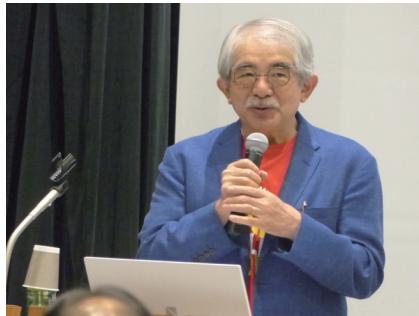


写真2 「END POLIO」Tシャツを着用し、ご講演中の中村安秀理事長



写真3 「古着deワクチン」の集荷トラックを前にEND POLIOまで「あと少し！」のポーズ

主催の『END POLIOまで「あと少し！」POLIOを学び、根絶を目指す』イベントが開催されました。午前中は前年度及び一昨年度に続き「古着 de ワクチン」事業を行い、古着約 1.2t の梱包作業と街頭での「ポリオプラス」への募金活動を松商学園高等学校インターラクトクラブと共同で行いました。(写真1)

そして午後より中村安秀理事長より「ポリオワクチン接種を通じて子どもと家族を守る：パレスチナやアジアの現場からの学び」のタイトルでご講演いただきました。(図1、写真2) 参加者は一般聴衆者を含めた約 60 名となりました。ご講演の内容は、中村理事長がご経験されたインドネシアやパプアニューギニアでのポリオワクチン集団投与状況についてのご説明、UNRWA 所属の清田明宏医療局長からご提供いただいたパレスチナ・ガザ地区でのワクチン接種状況のお写真を元にされたご説明、住民運動と政治家による判断でなされた日本におけるポリオ対策や天然痘を根絶することができた理由をご説明いただきました。さらに、WHO憲章の前文に記載されている

「世界中すべての人々が健康であることは、平和と安全を達成するための基礎であり、その成否は、個人と国家の全面的な協力が得られるかどうかにかかっています」のご紹介等、大変濃密で有意義なご講演でございました。パレスチナ・ガザ地区における子どもたちへのワクチン接種の際には、日常的に外出することが制約されている祖父母などの家族までもがミサイルが飛び交っていた戦火が休戦となったつかの間に、着飾って接種会場を訪れていたお話を聞きするに及び何とも切ない気持ちになりました。

ご講演後の質問コーナーでは、不活化ワクチンと生ワクチンについてのご説明や、中村理事長の海外でのご活躍に際しての「見るまえに跳べ」の精神を語っていただき聴講していた学生たちは大きな刺激を受けておりました。

最後に当クラブの内川小百合会員より当クラブのこれまでの END POLIO 活動をご紹介して講演会は盛況のうちに終了致しました。中村理事長におかれましては講演会後も会場に留まられ古着の運搬車両のお見送りまでしていただき、理事

長のソフトで説得力のある語り口調に酔いしれると共に気さくで心温かいお人柄にふれさせていただき大変感銘を受けた次第です。(写真3)

ポリオ根絶、そして紛争の無い世界を願って

イベント日から数日後、幸いなことに 11月 5 日までにパレスチナ・ガザ地区における 10 歳未満の子どもたち 94% に対して、2 回目のポリオワクチン接種投与が完了したとの報道を目につくことができました。現地の過酷な環境下で子どもたちのために活動されておられる方々に敬意を表すると共に、更なる支援の必要性を強く感じた次第です。今回ご講演いただきましたことを糧にクラブでできることを模索し、今後もポリオ根絶に向けた発信・活動を実施してまいる所存です。この度は誠に有難うございました。ポリオ根絶まで「あと少し！」、そして未来ある子どもたちのために紛争が無くなることを願います！